

水仙畑が国の重要文化的景観に選定／担い手確保、獣害対策に期待

国の重要文化的景観に、越前海岸の水仙畑が選定されることになった。2005年に同景観が設けられて以来、県内では初の選定であり、さらに花の栽培地としては全国初だ。海沿いの斜面や棚田に広がる県花「水仙」の畑が、集落住民の暮らしを理解する上で欠かせない景観と評価されたことは喜ばしい。現地には生産者の高齢化や獣害といった課題があり、選定が解決につながるきっかけとなることを期待したい。

重要文化的景観は、地域の人々の営みや風土によって形成された景観地で特に重要なものを国が選定し、修繕費などを補助する。今回で全国70件となる。

越前海岸の水仙畑は福井市の「下岬」、越前町の「上岬」、南越前町の「糠」の3件が対象となった。いずれも平地が少なく冬は海が荒れる厳しい住環境の中、自生していた水仙を住民たちが栽培地を広げ、特産物に発展させてきた。まさに重要文化的景観の趣旨に沿う地域だ。

一方で、厳しい現実もある。一つは生産者の高齢化だ。選定を受けて記者が関係者に取材したところ、越前町の集落では「担い手は若くて60代、メインは70代」との実態が聞かれた。急斜面で滑り落ちるのをこらえながらの草刈りや球根の植え替えは、大変な労力がある。寒い冬に水仙を収穫し、冷たい水で洗って選定するのも、きつい作業だという。こうした栽培活動を高齢者が担っている。

獣害も拡大している。水仙畑でイノシシが球根を掘り起こしたり、シカが球根や葉を食べてしまったりする。柵を設置して対策しているものの、獣に突進されて壊されるなど毎年メンテナンスが必要という。そもそも急斜面での柵の設置や補修自体が大きな負担だ。

越前海岸は日本水仙の三大群生地の一つとして知られ、冬の日本海を望む斜面にかれんな花が咲く景観は、県内の代表的な観光資源として愛されてきた。芳香に包まれるイベント「水仙まつり」や、かすり姿でまつりをPRする「水仙娘」も広く親しまれてきた。

今回の選定を受け、県や3市町は獣害対策を強化するほか、水仙畑の景観の魅力を発信して交流人口を増やし、担い手確保につなげたい考えだとしている。地元住民からも、助成や支援を期待する声が聞かれる。

県民の誇りといえる水仙の栽培が今後も持続可能な産業となるよう、関係者一体でアイデアを凝らし、取り組みを進めてもらいたい。今回の選定が水仙の注目度を高め、畑の保全の追い風となってほしい。